

Spiritualism News Letter

2004
第 25 号

4月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行/スピリチュアリズム・サークル 心の道場

発行人/小池里予

〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1

TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257

ホームページアドレス <http://www5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

今
号
の
特
点

- ・『シルバーバーチの霊訓』を基準とする本物のスピリチュアリズムの確立を！… 1
- ・霊魂の受胎と、それに関連した諸問題
水子霊・水子霊の運命・人間クローン・水子供養とインチキ靈感商法……11

『シルバーバーチの霊訓』を基準とする 本物のスピリチュアリズムの確立を！

ニューズレター先号(24号)では、スピリチュアリズムのレベルアップについて見てきました。スピリチュアリズムは150年の歴史の中で、今まさに、さらなる質的飛躍・霊的レベルの飛躍の時を迎えています。これまでの心靈現象中心・霊的知識中心のスピリチュアリズムから、霊的真理の実践を中心とするスピリチュアリズム、霊的真理を土台とする信仰的スピリチュアリズムに進化向上しようとしています。シルバーバーチをはじめとする高級霊の教えによって、地上人類が霊的成長をなし、真の霊的救いを成就する時代が到来しようとしているのです。

私達は、そんな素晴らしい時代に地上に生をうけ、そのうえスピリチュアリストとして、最高の貢献ができる恵まれた立場に立っています。

今回のニューズレターも先回に引き続き、スピリチュアリズムの霊的レベルアップの問題を取り上げます。

1 || SNU会長ヒギンソンの、 英国スピリチュアリズムに 対する不満

SNU(英国スピリチュアリスト同盟)は英国最大のスピリチュアリストの組織ですが、そのSNUの会長であったヒギンソンが、有名な霊媒レスリー・フrintととともに、シルバーバーチの交霊会に招待され対談しています。そのときの様子が、『新たな啓示』(ハート出版)の中に取り上げられています。

SNU会長といえば、英国のスピリチュアリストにあっては、一番の長老格・大御所的存在と言えます。そのヒギンソンとシルバーバーチのやりとりは、今後のスピリチュアリズムの発展を考えるうえで、とても興味深い内容となっています。



英国スピリチュアリズムのリーダーの不満

ヒギンソンはシルバーバーチに、次のような英国スピリチュアリズムの実状に対する不満を述べています——「現在のスピリチュアリズムは正しい方向に向かっていると思われませんか。私には非常に混乱したイメージしかありません。どこへ足を運んでも、そこにはまた違った考えを持った人達があります。正しい理解が行きわたるまでには、どれくらいの年月がかかるのでしょうか。進むべき道はどちらにあるのでしょうか」(45頁)

同じスピリチュアリストを標榜しながらも、スピリチュアリズムに対する理解がバラバラで統一した共通認識が確立されておらず、非常に混乱した状態にあると英国スピリチュアリズムの現状を嘆いています。世界で最も長い伝統を誇る英国スピリチュアリズムにおいて、基本的な方向性・共通の見解が確立されていないということは驚きです。

このヒギンソンの質問に対するシルバーバーチの答えが——「スピリチュアリズムの最大の敵は、外部でなく内部にいる。つまり生半可な知識ですべてを悟ったつもりでいる人達が、往々にして最大の障害となっている」(46頁) というものです。

ヒギンソンはまたシルバーバーチに、次のような切実な質問を投げかけています——「スピリチュアリスト・チャーチを訪ねて回ることがあるのですが、こんな程度のものなら閉鎖してしまった方がいいのではないかと思うことがあります」(49頁) 英国スピリチュアリズム界の頂点の立場にあるリーダーが、自分達のチャーチを「こんな程度の低いものなら存在価値がない」と述べている事態は深刻です。

ヒギンソンはさらに、英国各地のスピリチュアリスト・チャーチがとっている方法に高度な霊性が欠けていることに不満を示してから、次のように言っています——「物理現象の方に関心が偏り過ぎて、霊的教訓がおろそかにされています。これではよろしいのでしょうか」(51頁)「失敗したスピリチュアリスト・チャーチの多くは、現象面に偏り過ぎたためということ考えられないでしょうか」(52頁)

英国スピリチュアリズムの実状

英国スピリチュアリズム界で一番のリーダー格ともいべき人物が述べる言葉は、英国スピリチュアリズムの実状を端的に示しているものと思われま。英国スピリチュアリズムが、旧態依然として現象を中心としたスピリチュアリズムを展開し、霊的教えとその実践の方向に歩み出せないでいる状況がよく分かります。

先回のニューズレターで、英国のスピリチュアリズムには、もはや魅力を見い出せないと述べましたが、それと同じことを英国スピリチュアリズムのリーダー自身が述べているのです。



ヒギンソンの霊的リーダーとしての資質

以上のようなヒギンソンの質問内容から、彼が霊的真理を深く理解し、シルバーバーチが教えるような正しいスピリチュアリズム観を持っていたことを窺い知ることができます。シルバーバーチに対する質問は、スピリチュアリズムの本質を的確に押さえたものとなっています。ヒギンソンは物理霊媒として活躍し名声を博していたにもかかわらず、スピリチュアリズムの本質は現象ではなく教訓の実践であること、時代は物理現象から教訓の時代に移行していることを正しく理解していたのです。

謙虚な人間性とともな霊的指導者としての資質に恵まれていたからこそ、SNUの会長という重責を担う立場に立たされることになったのでしょう。同席していたレスリー・フロントが、物理霊媒としての立場に依然として固執している様子と比べ、はるかに高い霊性の持ち主であったことが窺われます。

ヒギンソンは英国スピリチュアリズムのリーダーとして、英国スピリチュアリズムの未熟さを客観視することができる人間でした。それゆえ英国スピリチュアリズムの霊的レベルの低さを嘆くことになったのです。彼がこのような高い霊的な判断力を持っていたのは、『シルバーバーチの霊訓』を読み、スピリチュアリズムの本来あるべき姿を正確に知っていたからだと思われます。シルバーバーチの教えるところを正しく理解していたために、適切な霊的判断を下すことができたのでしょう。シルバーバーチの霊訓の偉大さは、こうしたところにも現れているように思われます。



2 || シルバーバーチからの、 霊的レベルアップのための アドバイス

ヒギンソンがシルバーバーチに質問したのは、ただ自分の不満や愚痴を聞いてもらいたかったからではありません。英国スピリチュアリズムの低い霊的レベルを、どのようにしたら引き上げられるのかを、シルバーバーチに教えてもらおうと思ったのです。何とかして英国スピリチュアリズムの霊的レベルアップを図りたいという責任感と熱意から、シルバーバーチに次々と質問を投げかけたのです。

シルバーバーチのアドバイス

ヒギンソンの真剣な質問に対して、シルバーバーチは次のような答えを述べています。そこには、きわめて重要で意味深い内容が示されています——「そういう方向へ鼓舞する、何か動機づけとなるものを与え、進むべき道を明示する必要があります。一つの基準を設ければ、みんなそれに従うようになるでしょう。従わない者は脱落していくでしょう。(中略) 思い切って突き進みなさい」(54頁)

シルバーバーチが示した霊的レベルアップのプロセス

シルバーバーチが示したスピリチュアリズムの霊的レベルアップの方法とは、一つの高い基準(目標)を示す→自動的にそれに従おうとする者と、(それに従えず)脱落する者に分かれる→高い基準に従う者達が突き進む→スピリチュアリズム全体の霊的レベルアップが実現する、というものです。こうしたプロセスをへて、霊的に高められた新しいスピリチュアリズムの展開がなされるようになるということです。

シルバーバーチは、スピリチュアリズム全体のレベルアップを図るために——まず「これまでとは違った高い霊的基準を人々に示しなさい」とヒギンソンにアドバイスしたのです。さらにシルバーバーチ

は——「自分が正しいと確信しているなら思い切って実行し、袂を分かつべき人とは潔く手を切り、その人の望む道を進ませてあげればよろしい」(47頁)と書いています。

そして、「あなたが正しいと思うことを実行なさることです。あなたの良心が命じているのはこれだ、と確信するところから従って行動し、他の者が何と云おうと気になさらずにことです」(51頁)と霊的レベルアップにともなう摩擦や反対に負けないように励まし言葉を送っています。

3 || サイキック・レベルから スピリチュアル・レベルへの 飛躍

ではシルバーバーチは、スピリチュアリズムの霊的レベルアップを図るために設定すべき高い基準(目標)を、具体的に何であると言っているのでしょうか。その一つとしてシルバーバーチは——「よりスピリチュアルなものを志向すること」「スピリチュアルなレベルに引き上げること」を挙げています。

教会(チャーチ)というものをこしらえて、そこを霊力の顕現する聖殿としたいのであれば、低俗なものを拒否し、高級なものを志向すべきです。霊媒現象がただのサイキックなものに止まるのであれば、せつかく教会を設立した意味がなくなります。ぜひともスピリチュアルなレベルにまで上げないといけません。(中略)それを最下等のサイキックなレベルで満足しているということは、進歩していないということになります。

(新たな啓示・53)

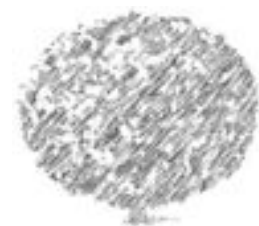
シルバーバーチは霊的能力を、「サイキック・レベルの能力(サイキック能力)」と「スピリチュアル・レベルの能力(スピリチュアル能力)」の2つに厳格に区別しています。それはスピリチュアリズム全体の霊的レベルにも、そのまま適用されます。スピリチュアリズム全体の霊的レベルとして、「サイキック・レベル」と「スピリチュアル・レベル」があるということです。

そして「サイキック・レベル」のスピリチュアリズムを、「スピリチュアル・レベル」のスピリチュアリズムへと引き上げることが、まさに霊的レベルアップの具体的な内容となるのです。

「サイキック能力」と「スピリチュアル能力」 の違い

サイキック能力とは、一般的に言う霊能力のことです。霊体に備わっている能力のことで、それを肉体を持ったままで発揮できる人が霊能者です。このサイキック能力によって、さまざまな心霊現象が演出されることになります。

それに対しスピリチュアル能力とは、霊界の人々(高級霊)の援助・応援を引き出すことができる能力を指します。地上人は誰もが一人の守護霊を持っていますが、スピリチュアル能力によって、たった一人の地上人が何十・何百という献身的な指導霊・援助霊のバックアップを受けられるようになります。サイキック能力では一人分の働きしかできないのに対して、スピリチュアル能力があれば、何十分、何百人分の大きな働きをすることができるようになります。能力としてはスピリチュアルの方が、比較にならないほど高度で強力なものと言えます。



「スピリチュアル能力」を身につけるには

では、そうした「スピリチュアル能力」を身につけるには、どうしたらいいのでしょうか。結論を言えば——「地上人が、高級霊が魅力を感じるような高尚な精神と利他愛、そして自己犠牲を厭わない奉仕の意志を持つ」ということです。このような高い霊的内容を備えることが、スピリチュアル能力を身につけるための必要条件となります。

霊界の高級霊達は例外なく、「地上人の救いのために働きたい」という純粋な利他愛を持っています。それを可能にしてくれる「地上の道具」を求めています。ですから高級霊の道具となれる霊的内容があれば、おのずとスピリチュアル能力を得られるようになるのです。高級霊と同じ純粋な利他的思いと奉仕精神を持つことによって、高級霊の心を引き付け、多くの援助を受けられるようになるのです。

本物のスピリチュアル能力を身につけるには、地上人の霊性・霊的内容が決め手となります。これは言い換えれば——「地上人の霊的成長の度合によって、スピリチュアル能力の程度が決定する」ということです。物質性・本能性をコントロールして利己性を拭い去り、無償の奉仕精神を持つにともない地上人の霊性は進化しますが、それに応じてスピリチュアル能力は自然と身につくものなのです。

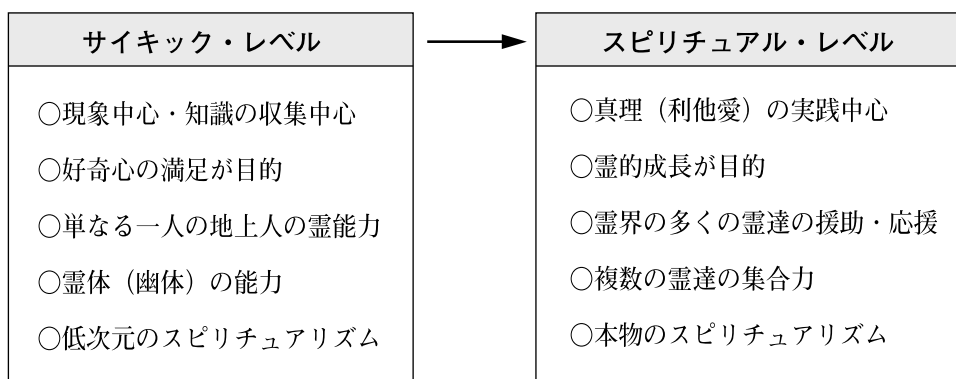
世の大半の霊能者は、サイキック能力はあっても、スピリチュアル能力はほとんど持っていません。それだけ霊性が低い、高級霊の願いに一致していない、

高級霊の願いにそうとすることができない、ということなのです。サイキック能力を持った霊能者が、スピリチュアル能力を合わせ持つと優れた働きをするようになります。本当のスピリチュアル・ヒーラーとは、こうした人間のことを言うのです。

サイキック・レベルにとどまっていた、これまでのスピリチュアリズム

スピリチュアリズムは、いつまでもサイキック・レベルにとどまり続けていてはなりません。スピリチュアリズムは、ぜひともサイキック・レベルからスピリチュアル・レベルにまで高まっていかなければなりません。しかし現実のスピリチュアリズムの様子を見ると、いまだに心霊現象や単なる霊的知識の収集が中心となっています。それは英国スピリチュアリズムばかりでなく、日本のスピリチュアリズムも同様です。

スピリチュアリズム界は、シルバーバーチが示したように、今後はスピリチュアル・レベルへと飛躍向上していかなければなりません。スピリチュアリズムは、スピリチュアル・レベルに至って初めて「本物のスピリチュアリズム」となるのです。霊界の高級霊達が全面的に応援できるスピリチュアル・レベルの態勢ができ上がってこそ、スピリチュアリズムは世界中に“霊的光”を届けることができるようになるのです。



本当のスピリチュアル能力は、 靈的真理の実践と表裏一体関係

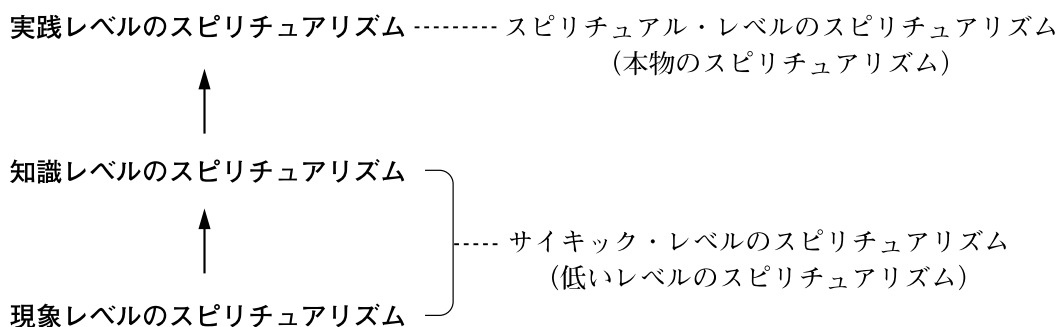
地上人が純粋な利他愛に基づく奉仕に励むとき、靈界の靈達は地上人の高貴な精神に引き付けられ、群がって多大な援助をするようになります。その結果、さらなる利他的行為・奉仕的行為が可能になります。これが「靈界の道具」であるスピリチュアリストの在るべき姿であり、靈界の人々が願うスピリチュアリズムなのです。

靈界の人々にとっては、地上人の心の内は手に取るように分かります。口先でどれだけ愛を唱えていても、それが本物であるのか、単なる奇麗事きれいごとであるのかは一目瞭然です。高級靈の前に一切のごまかしは効きません。したがって本当のスピリチュアル能力を持つには、靈的真理を正しく知っているというだけでは不十分なのです。靈的真理にそった ↗

生き方を現実に心がけているかどうか、利他的行為を本当に実行しようとしているかどうかが決め手となるのです。

先号のニューズレターで、スピリチュアリズムは現象レベル→知識レベル→真理の実践レベルの段階をへて進化発展することを述べました。「スピリチュアル能力」は、真理の実践レベルに至って初めて可能となるのです。すなわち真理の実践レベルのスピリチュアリズムとは、スピリチュアル・レベルのスピリチュアリズムと同じものなのです。

本物のスピリチュアリズムとは、靈的真理の実践を中心としたものであり、靈界人と一体となったスピリチュアリズムのことなのです。本物のスピリチュアリズムの証明は——「靈的真理の実践を中心に行っている」「多くの高級靈を引き付けられる」という2つの点でなされます。



スピリチュアル用語を悪用する 「偽スピリチュアリズム」

ここで、わざわざ「本物のスピリチュアリズム」と限定しているのは、最近“スピリチュアル”の名に値しないものが、その名称で用いられている事実があるからです。故意にスピリチュアリズムの靈的知識を利用して、世俗的栄達の足がかりにしようとしている者がいます。スピリチュアルなる美辞麗句びじれいくを多用して巧妙に、本当の靈的教えを人間中心の教えおとしに貶め、世俗に迎合し、まるでこの世の人気取りだけを狙っています。そうした者にとっては、↗

スピリチュアリズムの発展より、自分の利益・名声こそが大切なのでしょう。シルバーバーチの靈訓を正しく理解している者なら、その内容は一見して偽物と見抜けるものばかりですが、何も知らない人々は簡単に騙だまされてしまいます。

スピリチュアリズムを私欲のために利用する人間に、高級靈達が働きかけることはありません。そうした人間は不純なエゴイストであり、それは低次元のスピリチュアリズムにも至らない「偽スピリチュアリズム」に他なりません。

4 || シルバーバーチの靈訓は、スピリチュアリズムにおける最高の靈的基準

神庁で審議決定された『シルバーバーチの靈訓』

シルバーバーチは——「皆さんは今、靈界での審議会で用意された叡知が、このわたしを通じて届けられるのをお聞きになっていらっしゃるのです」(道しるべ・238)と述べています。こうした『シルバーバーチの靈訓』が地上にもたらされたということは、スピリチュアリズムにとって決定的に重要な意味を持っています。

シルバーバーチの靈訓は、その教えの内容の高さ・深さ・広さ——どの点においても抜きん出ています。また靈的知識・情報の正確さ、スケールの大きさにおいても、他の靈界通信や宗教思想を圧倒しています。現在の地球上で、シルバーバーチの靈訓に匹敵するものは存在しません。イエスを中心とする高級靈界の神庁で新たに決定されないうえ、当分の間、シルバーバーチ以上の教えが地上世界にもたらされることはないでしょう。

シルバーバーチの靈訓は、まさにスピリチュアリズムの頂点を示すものであり、スピリチュアリズムを推し進めてきた高級靈達の努力の結晶・最高傑作と言えます。シルバーバーチの靈訓は人類が手にした最高の叡知であり、スピリチュアリズムは、シルバーバーチの靈訓の到来によって、一気にその靈的レベルを引き上げることになりました。

シルバーバーチの靈訓には、そうした重大な使命があるのです。スピリチュアリズムの靈的レベルアップを図ることも、シルバーバーチ靈団の使命の一つだったのです。地上のスピリチュアリズムは、シルバーバーチの靈訓によって、靈的レベルアップの時期を迎えることになりました。

シルバーバーチの靈訓の忠実な実践

シルバーバーチの靈訓は、地上人がスピリチュアル・レベルに至るための具体的な方法を明らかにしています。シルバーバーチの示した「靈的真理」を地上人が忠実に実践に移すことによって、本人の靈性の向上ばかりでなく、スピリチュアリズム全体のレベルアップがなされるようになります。日本のスピリチュアリズム界においても、英国のスピリチュアリズム界においても、シルバーバーチという「最高の靈的基準」を、これからのスピリチュアリズムの目標として掲げていかなければなりません。シルバーバーチの靈訓を忠実に実践に移すことが、今後のスピリチュアリズムに求められます。

そうした高い基準を示せば当然のこととして、それに応じようとする人々と、反発する人々が現れます。そして反発する人、これまで通りでいいという人は自然と脱落していくことになります。今後のスピリチュアリズムは、シルバーバーチの靈訓を忠実に実践しようとするスピリチュアリストによって進められていくことになるでしょう。そうしたスピリチュアリストを靈界の高級靈が全面的にバックアップする中で、進展していくことになります。

すでにシルバーバーチの靈訓を手にした方々には、それを人生の指針として、忠実に実行していく姿勢が真っ先に求められることになります。シルバーバーチは、繰り返し実践の大切さ・日常の行為の大切さを説いています。また自分の人生を靈界の道具として捧げ、無私の奉仕(スピリチュアリズムの普及)に励んでほしいと必死に訴えかけています。靈的真理という靈的宝を、他人に先んじて与えられた私達スピリチュアリストには、高級靈の声に忠実に応えていく誠意が求められているのです。



靈訓に忠実であろうとすることは、 教条や狂信とは無縁

反対者の中には、高級霊の教えや訴えに忠実であろうとすることを、狂信・教条・偏狭といった言葉で批判する人がいます。「自己を超越して、信仰対象にすべてを捧げる」という姿勢は信仰の大前提です。人間は神によって、自己を超越してより大きな存在（無限大の神）と関係を持つことができるように、こうした属性が与えられているのです。自己の世界を越えて、さらに大きな存在との靈的一体を求める性向、大きな存在に忠実であろうとする性向——それは神によって付与された靈魂の本性（本能）なのです。

しかし、そうした靈的本性は、従来の宗教に正しい靈的真理がなかったために“宗教エゴ”を引き出し、悪なる方向に利用されてきました。そして結果的に、人間を不幸に陥れてきました。シルバーバーチはそうした実状に対して——「地上の宗教はすべて間違っている。靈界から見たとき合格する宗教はない」といった内容を述べています。

スピリチュアリズムは、これまでの宗教とは本質的に異なっています。靈界では一人の例外もなく、神の存在を実感し、神の摂理・法則にそった生活が営まれています。神の摂理から外れた生き方はできないようになっていきます。生活のすべてが高次の宗教そのもの、信仰生活そのものとなっています。そこには高い目標となる「靈的真理」と、各人の靈性に基づく「自発的な信仰」があるだけです。もちろん教祖も組織も強制もありません。私達が係わるスピリチュアリズム計画とは、そうした靈界における信仰形態・宗教的性格を、そのまま地上にもたらそうとするものなのです。

その意味でスピリチュアリズムは、地上における最も靈的な宗教・最も純粋な信仰と言えます。スピリチュアリズムは、従来の宗教とは根本的に異なる宗教なのです。教えに忠実であることが“狂信”や“エゴ”と結び付かない初めての宗教であり信仰なのです。

スピリチュアリズムを、これまでの地上の宗教と

同一視することは間違っています。スピリチュアリズムにおける真剣さ・忠実さは、狂信・教条とは無縁です。それは靈界における高級霊の信仰が、真剣・真摯であるのに狂信とは無縁であるのと同じです。シルバーバーチは繰り返し——「自己を滅却し、自己を捧げるように……」と述べていますが、その言葉を忠実に実践に移しても、狂信・教条にならないどころか、ますます神の靈的摂理に一致していくようになるのです。

スピリチュアリズムの靈的真理に忠実であろうとすることへの反発は、実際には、本人の低俗な嫉妬や見栄・傲慢さ・怠惰が原因となっています。本能的な気ままだが許されない苛立ち^{いらだ}、気楽にやりたいのにそれにブレーキをかけなければならぬうっとうしさが、その大半の理由ではないでしょうか。低俗なエゴ的感情が、真理に忠実であろうとすることに反対する本当の理由なのです。

スピリチュアリズムの本質が理解できずに、従来の壁を乗り越えようとししない人は、自分なりの道をいくしかありません。シルバーバーチの靈訓を読みながら、シルバーバーチが必死に訴えかけている声を無視するような人は、いつまでも自分勝手な言い訳を頭の中で繰り返していくしかないのです。それはスピリチュアリズムを正しく理解していない、シルバーバーチの靈訓を正確に理解していないということなのです。



5 || スピリチュアリズム全体の レベルアップは、一人一人の 実践努力から

霊的レベルアップには“奮闘努力”が必要

霊的レベルアップを凶るということは、個人的には「積極的に霊的成長の道を歩む」ということに他なりません。それは霊的存在として造られた人間にとって、一番の宝を手にするということです。永遠の霊的宝、死によって滅びることのない本物の宝、最も価値ある最高の宝を手にする事なのです。

私達スピリチュアリストは、ただ単にシルバーバーチの霊訓を受け入れるだけではだめなのです。シルバーバーチ・ファンになるだけではだめなのです。霊的宝は、シルバーバーチの霊訓を忠実に実践する中で獲得されるものです。そのためにはシルバーバーチが繰り返し述べているように、必ず“奮闘努力”という厳しいプロセスを踏まなければなりません。

価値ある賞ほど手に入れるのが困難なのです。容易にもらえるものは価値はないこととなります。簡単に達成したものほど忘れやすいものです。内部の神性の開発は、達成困難なものの中でも最も困難なものです。

(シルバーバーチ1・71)



個人の実践努力が、日本・世界に霊的影響を及ぼす

そのように一人一人が困難を乗り越えてシルバーバーチの教えを忠実に実行することによって、結果的に、日本のスピリチュアリズム全体のレベルアップが実現することになります。さらには日本ばかりでなく、アジア全体・世界全体の霊的レベルアップに貢献することにもなります。

霊界から示された“霊的教訓”を忠実に実践することは、単にその個人の霊的救いとどまらず、日本全体、アジア全体、そして世界全体に霊的影響を及ぼすことになるのです。個人の真剣な実践努力は、スピリチュアリズム全体のレベルアップに直結しています。他の人々に先んじて霊的真理と出会った私達スピリチュアリストの責任は、それほどまでに大きいということなのです。

霊的成長のための具体的な実践内容とは

実践への意欲を高める前にまず私達は、シルバーバーチが霊的成長のために示している実践内容について明確に知っておかなければなりません。「何をすべきか」をはっきりと知っておくことは、実践における第一歩です。それと同時に、実践にともなう困難や苦しみ・障害についても、しっかりと認識しておく必要があるでしょう。起こり得る困難や厳しさを前もって知っておくなら、障害を乗り越える心構えを整え、困難に対する闘いの決意を高めることができます。

シルバーバーチが明らかにしている積極的に実践すべき内容（スピリチュアリズムの実践内容）は、大きく次の2つに集約することができます——①霊主肉従の努力（霊優位・霊中心の生き方、霊的自己コントロール） ②利他愛の実践——シルバーバーチはこの2つの実践内容について、表現を変えて繰り返し述べています。（*これについてはすでにニューズレターで何度も説明しています。また当サークル発行『続スピリチュアリズム入門』でも取り上げていますので、ここでは省略します。）

実践内容のさまざまなレベル——より高い実践を目指して

霊的レベルアップを図るためには、霊主肉従（霊優位・霊中心）の努力と、利他愛の実践が不可欠ですが、この2つの実践内容には、さまざまなレベルがあります。つまり霊主肉従の努力・利他愛の実践といっても、質的に高いものから、単なる道德レベルの低いものがあるということなのです。当然、質的に高い実践に励めば励むほど、より霊的成長が促されることとなります。

霊主肉従には、聖別度の低い生ぬるい段階から、霊界人に近い厳格で澄み切った高い段階まで、さま

ざまなレベルが存在します。利他愛についても、深さ・広さの点でさまざまな段階が存在します。利他的行為に自己犠牲がともなえばともなうほど、利他愛のレベルは深くなります。滅私性がともなえばともなうほど、道具意識が純粹になればなるほど、利他愛のレベルは高められます。

言うまでもなく「霊的成長」とは——より高いレベルに向けて一步一步前進していくことに他なりません。同時にそれは、より多くの困難と厳しさを自分に課す“霊的修行”にもなっています。

こうしたテーマについては、今後のニューズレターで取り上げることにします。



靈魂の受胎と、それに関連した諸問題

水子霊・水子霊の運命・人間クローン・水子供養と インチキ靈感商法

今回は、靈魂の受胎とそれに関連するさまざまな問題を幅広く取り上げます。地上人生の出発となる靈魂と肉体の結合、受胎霊（水子霊）の存在、受胎霊の行方、今話題となっているクローン人間の誕生、世に言う水子の祟りや水子供養などについて見ていきます。

こうした受胎霊に関連する諸問題を取り上げ、スピリチュアリズムの観点から整理することにします。

1 || 人間の受胎・出生に関する 質問・疑問

① 霊にとっての地上人生の出発点 —— 霊はいつ胎児に宿るのか

霊にとっての地上人生の始まり——受胎時か、3カ月か、出生時か

霊が、地上人生を出発するのはいつからなのでしょう。昔から、多くの宗教家や思想家によって、この問題が議論されてきました。

ある者は受胎した時が人間の出発点であるとし（*受胎入魂説）、ある者は胎児3カ月目に霊が宿るようになると言います。また胎児7カ月目に霊が吹き込まれ、これが人間としての出発点になると言う人もいます。キリスト教などでは一般的に、出生時に赤子が自分で呼吸を始める時に霊が吹き込まれ、この時をもって地上人生が始まるとします（*出生入魂説）。

水子霊の存在を認めない立場では、当然、出生入魂説の見解を取るようになります。

シルバーバーチは、「受胎の瞬間」を地上人生の始まりとする

では、スピリチュアリズムにおいては、いつの時点でも地上人生の出発点と考えているのでしょうか。すでに『シルバーバーチの霊訓』を読まれた方は、この問題についてのシルバーバーチの明快な答えを知っていらっしゃると思います。シルバーバーチは——「地上人生の出発点は、精子と卵子が結合して受精卵となった瞬間である」と述べています。シルバーバーチは、明確な「受胎入魂説」を主張しています。

こうした受胎入魂説に対しては、普通次のような反論が加えられます——「胎児期に、流産や中絶によって肉体を奪われると、結果的には出生できなくなる。地上人として存在できなくなるのだから、受胎時を人間の出発点とするのはおかしい。無事に誕生してこそ地上人生を歩めるようになることを考えれば、出生の瞬間を人生の出発点としなければ辻褄が合わない」というものです。この主張には論理性があり、いかにも正当であるかのような印象を受けます。

しかしこの見解は、「胎児中に肉体を奪われても、水子霊として生き続ける」という霊的事実の観点を完全に欠落させています。しかも、そうした水子霊は、再び受胎して地上に誕生することができるという重大な事実を考慮すると、受胎時期をもって地上人生の出発点としても、論理的には矛盾しないことになります。

胎児の肉体は、胎児霊の乗り物

シルバーバーチは、地上人の質問に対して、常に徹底した霊的視点に立って回答を与えます。この問題についても、霊的事実を根拠とした明瞭な説明をしています。

シルバーバーチは“霊”こそが人間にとっての本体であり、“肉体”はその霊の地上世界における媒介体・乗り物に過ぎないとします。こうした見方が、人間の出発点の問題を考えるうえでの大原則であり、胎児にもそのまま当てはまります。胎児の肉体は、胎児霊の媒介体であり、乗り物に過ぎないということなのです。妊娠中に肉体を奪われると、霊は乗り物を失うこととなりますが、霊という本体は別になくなってしまいうけではありません。

妊娠中の胎児の肉体は、霊の乗り物として成長していきますが、それは母体から出て自力で呼吸することができる時をもって完成します。もし自力で呼吸ができなければ、肉体は霊の媒介体（乗り物）としての役目を果たせなくなります。大切なことは、胎児にとって霊こそが本体であり、肉体は単なる媒介体に過ぎないということです。物質的視点から見ると、胎児の肉体がなくなれば胎児そのものが消滅したように思ってしまうかもしれませんが、胎児は肉体を持たない霊として存在し続けるということなのです。

したがってシルバーバーチの言うように——「受胎時期をもって、地上人生の出発とする」という見解が一番霊的事実に合致していることとなります。水子霊が現実中存在し、その水子霊が再び地上人として生まれるという事実を考えると、シルバーバーチのように、受胎を地上人生の出発点とするのが正しい見解であることが明らかになります。

昔の日本人は、受胎時期を人生の出発点として年齢を数えました。すなわち数え年です。今は出生時をもって地上人生の出発点とみなし、それをゼロ歳としますが、霊的観点に立てば、昔の数え年の方が正しいということになります。

*カルデックの『霊の書』（*当サークル発行『スピリチュアリズムの真髄・思想編』）では、シルバーバーチとは少々異なる説明がなされています。魂が肉体と結合するのはいつでしょうかという質問に対して——「受胎の瞬間から結合作用が開始されますが、完了するのは誕生の瞬間です。受胎の瞬間に、その肉体に宿ることになっている霊と受胎した細胞とが流動質の紐でつながります。そのつながりは日を追って緊密になり、出産後の産声によって、地上の人間の一人となったことを告げることになります」と言っています。

これは「霊体と肉体の結び付き」を中心にしてとらえたもので、シルバーバーチが徹底して「霊の存在」を一番の根拠としているのとは、視点が少し違っています。地上人の理解に配慮した形で、地上人の目線にまで降りて、霊的要素と肉体の双方を同時に考慮した見解となっています。受胎入魂説を中心としながらも、出生入魂説の要素を上手に取り入れた折衷的な見解と言えます。内容的にはシルバーバーチと矛盾するところはありません。



②新しい霊と古い霊の問題

受胎霊の2つのケース

受胎入魂説は、地上人生は受胎をもって出発するという見解です。受精の瞬間に、ミニチュアの霊と、ミニチュアの肉体が合体し、ミニチュアの地上人ができ上がることとなります。地上人の本体である霊が、この瞬間から地上生活を始めるようになることを意味します。

さて、ここで受胎に関する重要な内容を述べることにしましょう。それは受胎において地上生活を出発する霊には、2種類あるということです。

1種類の霊は“再生霊”です。霊界にいる霊がもう一度地上人生をやり直すために、地上に再生します。この再生霊が、受精と同時に新たな地上人生を始めることとなります。こうした霊は、霊界では、霊体という霊の媒介体（霊的身体）を持って生活していましたが、再生人生を始めるに際しては、最小のミニチュアの霊体をまとい直して新たな出発をすることとなります。

もう1種類の受胎霊は、地球上への誕生をもって初めて個別霊となるケースです。再生霊を“古い霊”とするなら、この霊は“新しい霊”と言えます。この新しい霊には当然のこととして前世の人生はありません。今回、初めて人間として物質世界へ誕生するということです。この霊は、受胎をもって新しく地上人生を始めることとなりますが、それ以前は“霊の大海”の中に溶け込んでいて、個別的存在としての区別はありませんでした。受胎の時をもって、初めて個別の霊になるのです。霊の大海の中から一滴の霊が取り出され、受胎と同時に、大海から独立した霊として出発するのです。



自分は“新しい霊”か、それとも“古い霊”か

こうしたことを考えると皆さんは、自分は果たしてどちらのケースなのかと考えざるを得なくなることでしょう。自分には前世があって、今、再生霊として地上人生を歩んでいるのか、あるいは自分には前世はなく、今回初めて地上人生を出発するようになったのか、と思いをめぐらすようになるかも知れません。

理論上は1億2千万人の日本人は、再生霊（古い霊）と新しい霊に分かれるということです。自分には前世があったのか、なかったのかということは、とても重要な問題です。もし自分に前世がなかったとしたら、“前世のカルマ”というものはないこととなります。シルバーバーチは、「今の苦しみはカルマの償いになっている」ということを述べていますが、その説明が自分には当てはまらないこととなります。果たして自分は再生霊なのか、あるいは新しい霊なのか、さらには自分の子供は新しい霊なのか、それとも古い霊なのか、といったことにも関心が向くようになるでしょう。

ところで“新しい霊”と“古い霊”の比率は、一体どのようになっているのでしょうか。実は、これについての質問がシルバーバーチになされています。「地上へ誕生してくる者の中での“新しい霊”と“古い霊”の割合はどれくらいでしょうか」それに対してシルバーバーチは——「そういうご質問には、おおよそその数字すら出すことは不可能です。ですが、多分ほぼ同じくらいの割合ではないでしょうか」（道しるべ・213）と曖昧な返事をしています。

シルバーバーチの返事から察するに、この問題については、現在の地上人には明らかにしないようにとの霊界サイドの配慮があることが感じられます。そうした霊界サイドの事情があって、シルバーバーチは明確な答えを示さなかったものと思われます。

私達はこれまで『シルバーバーチの霊訓』を読むとき、自分達は皆、再生者であるかのような感覚で理解してきました。しかしシルバーバーチが言うように、地上人の半分が新しい霊であるとするなら、これから霊訓を読む際には、いろいろなことを考慮

しなければならなくなります。なぜなら、もし自分が新しい霊のケースであるなら、シルバーバーチの霊訓のある部分は、自分には当てはまらないことになるからです。

現在の地球人には秘密にされている問題

もし、この問題が高級霊の神庁によって、現時点の地球人には秘密事項とされているとするなら、私達地上人がむやみに詮索すべきではないでしょう。しかし、次のようなことだけは確かに言えます。“新しい霊”は霊的進化の経歴がなく霊的に未熟であり、一方“古い霊”は新しい霊に比べて霊的に進化しているということです。

そのことから推測されるのは、今こうしてスピリチュアリズムに導かれ、シルバーバーチの霊訓の素晴らしさを理解できる私達スピリチュアリストは、地球人の中では間違いなく進化した側の人間、すなわち“古い霊”に属しているであろうということです。シルバーバーチの霊訓を読めるような地上人は、古い霊（再生霊）と考えてほぼ間違いのないと思われまます。

また、現在スピリチュアリズムが普及している国々では、当然、再生霊の割合が高いということになるでしょう。私達の住む日本では、新しい霊よりも古い霊の方が多いと言えるのではないのでしょうか。もしかしたら大部分の日本人は、再生者であるかも知れません。

ところで皆さんは、霊界の各界層に存在する“類魂の総数”がどのくらいあるのか考えたことはないでしょうか。シルバーバーチの述べた内容を手がかりに、地球圏霊界での類魂の総数を推測することができます。1つの類魂から地上に再生する霊は1つに限られます。（*アフィニティーはこのケースには当てはまりませんが、めったに存在しないので数には入れません。）現在の地球の人口は、ほぼ60億人ですから、その半分が再生霊である可能性があることとなります。したがって地球圏霊界の類魂の総数は、少なくとも30億以上あると言えます。

このように地球圏霊界においてさえ類魂は無数

に存在しているので、宇宙全体となればその数は、もはや想像の域を越えてしまいます。

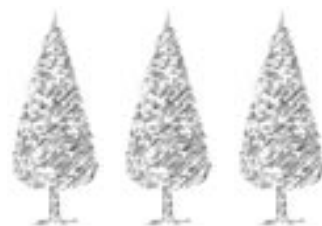
③クローン人間の問題

現在の惑星地球で、大きな問題となっているのが“クローン人間”の誕生です。男女の生殖を通じて新しい人間が誕生するのではなく、親の肉体と全く同じ遺伝子を持った複製をつくり出そうとするのがクローンです。羊や牛などの動物ではすでにクローンが成功しており、次はいよいよクローン人間の誕生かと騒がれています。

今、クローン人間誕生の是非をめぐって、世界中で大きな議論が巻き起こっています。最近になってスイスの某新興宗教が、突如、人間のクローンを誕生させたと発表し、世界中を驚かせました。もっともその信憑性は低く、クローン人間誕生の発表をまともに信じる科学者はほとんどいません。

男女の性的交わりを通じることなく新しい人間を誕生させるということは、イエスが処女マリアから生まれた話を思い起こさせることとなります。現に、宇宙人がクローン技術を用いてイエスを誕生させたというようなことを主張する人々がいます。イエスは宇宙人のクローン人間だったと言うのです。

もちろんそうした話には何の根拠もありませんし、単なる空想に過ぎません。イエスはマリアを母親として人間の子供として生まれ、人間として地上人生を全うし、そして死んでいきました。死後は霊界で、スピリチュアリズムという地球救済活動の責任者として大計画を推進しています。イエスは現実に霊界にいて、地球人類の救いのために日夜心を砕いているのです。



イエスにも当然、精子を提供した父親がいたはず
です。それがマリアと婚約していたヨセフでなかつ
たことは、はっきりしています。精子を提供した他
の男性がいたということになりますが、聖書ではそ
れについて明確に述べていません。（*しかし聖書の中
には、イエス誕生の深い背景を推測させるような記述が見られ
ます。）

スピリチュアリズムの観点から見たとき“クロー
ン人間”は、摂理に反したものであることは明らか
であり、到底容認することはできません。スピリ
チュアリズムは、臓器移植や輸血・人工的生殖技術
を霊的法則に反したものとして否定していますが、
クローン技術は、それら以上に異常なものなのです。
クローン人間の誕生は、科学技術の最大の悪用と言
えます。原子力の技術を核兵器開発に用いたのと等
しい悪行なのです。

クローン人間の魂は？

クローン人間の誕生というようなことは、決して
あってはなりません。しかし将来、心ない科学者によ
ってクローン人間が誕生するような事態が現実とな
る可能性も考えられます。そのときは新たな哲学的
・宗教的疑問が世界中で巻き起こることになるで
しょう。

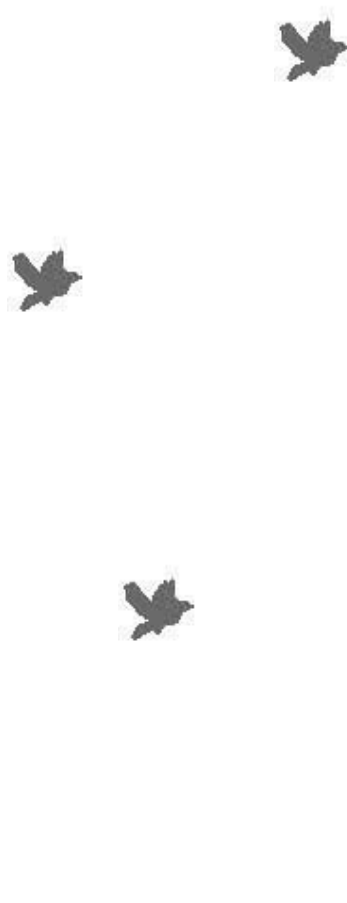
スピリチュアリストにとっても、「クローン人間
は、果たして霊（魂）をともなった人間になるのか」
「もしクローン人間にも霊があるとするなら、それ
はいつの時点で宿るようになるのか」「クローン人
間には霊体はあるのか」といった疑問が湧いてきま
す。

すでに述べたように人間の出発点は、精子と卵子
が結合した瞬間ですが、クローン人間の場合には、
いつがその出発点になるのでしょうか。それについ
ての答えは、次のようになります。

もしクローン胚の形成が成功したとするなら、そ
の 때가クローン人間の出発点となります。その時点
で「霊が宿るようになる」ということです。一般的
には、物質次元での肉体条件が満たされると、自動
的に「霊的法則」が働いて、霊（*新しい霊であれ古い

霊であれ）はミクロの肉体に宿るようになるのです。
その後クローン胚は分裂増殖して、胎児の身体を形
成していきませんが、それと並行して霊体も徐々に大
きくなっていきます。

普通の受精による場合でも、クローンによる場合
でも、胎児の肉体は地上人から与えられ、霊は神か
ら与えられる、ということについては変わりありま
せん。“人間のエゴ”という間違った動機であっても、
臓器移植や人工的生殖技術が成功することがあるよ
うに、クローン人間製造においても霊的法則は機械
的に作用し、霊が宿る可能性があるのです。それは
普通の生殖による霊肉の結合と同じです。（*神が造
られた霊的法則によって、霊の大海から分化・個別化が促され
“新しい霊”が地上の人間に宿ることになりますが、それはクロー
ン人間の場合も同様です。新しい霊も古い霊（再生霊）も、クロー
ン胚の形成というミクロの肉体の出発点において結合し、地上
人としての出発をなすようになります。）



クローン人間は、たとえ誕生しても分身とはならない

クローン胚に宿る霊は、肉体を提供した地上人の霊とは無関係です。その意味でクローン人間は初めから——「地上人の分身ではない」ということです。クローンベビーの誕生に期待を抱く人間は、どこまでも自分の分身が誕生することを望みますが、それは実現しません。仮にクローン人間ができたとしても、それは自分の分身ではないのです。全く別の霊、別人格を持った人間ということになります。クローン胚を提供した人間は、ただ霊の道具（乗り物）である肉体を提供しただけなのです。

人間が単なる肉体からなる物質的な存在であるなら、クローン人間は、肉体提供者の分身となるかも知れません。人間の霊を否定する唯物論の立場からは、クローン人間は文字どおり分身と言えます。その論法に従えば、心は脳という物質の産物に過ぎない以上、当然クローン人間も、肉体提供者と全く同じ心を持つようになるはずですが。

しかし現実には、決してそういうことにはなりません。もしクローン人間が誕生するなら、そのとき同時に、肉体と心はまったく別物であることが証明されることになるのです。そして唯物論的な人間観は、根本からその根拠を失うことになります。

再生霊がクローン人間に宿る可能性も考えられますが、その場合は再生霊が、自分でつくった前世の大きなカルマを清算するために、意識的に（あるいは強制的に）異常な身体を選んだということになります。これは自分のカルマを切るために、あえて不自由な肉体を選ぶのと同じことです。

2 || 胎児霊の存在と中絶の罪 ——自然流産と人工中絶の 大きな違い

水子とは、流産や中絶によって肉体を失った胎児の霊のこと

妊娠の瞬間から、霊（新しい霊・古い霊）は母親の子宮に宿っています。流産したり中絶されれば、その霊はたとえ未熟であっても霊的身体（霊体）を携えて生き、成長していかなければなりません。流産や中絶によって肉体という物的表現の媒体、地上生活のための乗り物を失っても、それによって霊と霊体は減ぶことにはなりません。

こうした肉体を失った「霊的胎児（胎児的霊）」を「水子霊」と言います。水子霊は、すでに「一個の独立した霊」であり、妊娠の瞬間から永遠に生き続ける存在として出発しています。そして霊界で成長を続けることになります。

流産や中絶によって水子霊ができることになりませんが、自然流産と中絶（*人工流産も含む）では、その内容が全く違ってきます。地上人の動機や再生霊の事情、またそれによる罪の内容は全く異なることになります。自然流産と中絶を同じように扱うことはできません。次に、流産と中絶のそれぞれの状況や霊的背景を見ていくことにします。



流産に係わる再生霊の事情と霊的背景

地上の親が、子供の誕生を願っているにもかかわらず、胎児が母親の子宮内で死亡することがあります。これが流産ですが、こうした流産にはさまざまな霊的原因が関係しています。

霊界にいた霊が胎児に宿り、再生人生を始めることについては、すでに述べました。この場合、霊は再生に先立って、自分のカルマを清算し、霊的成長をもたらしてくれる両親・肉体を選ぶこととなります。新しい人生について、自分で納得したうえで再生に臨みます。

しかし、そうした再生霊も時として、自ら選択した試練に後込みし、やがて地上に誕生することを強く拒絶するようになる場合があります。そのような時、胎児の肉体は死亡し、流産することになります。せっかくの地上への誕生というチャンスを自ら放棄した再生霊は、たいへんな苦しみをもってその罪を償わなければなりません。

一方、地上の両親は、流産によって大きなショックを受けることとなりますが、それがカルマの清算や霊的目覚めのきっかけになることが多いのです。

また再生霊が地上に誕生することを願い、地上の両親もそれを心待ちしながらも、予期せぬ事故や体調の悪化などによって流産するようなこともあります。このようなケースでは、再生霊には優先的に次のチャンスが与えられることとなります。同じ親、あるいは別の親を選んで地上に再生することになります。

この場合も、親は念願の子供の誕生が叶わず、一時的に悲しみの中に落とされることとなりますが、時間の経過とともに少しずつ心が癒されていくようになります。こうした流産のケースも、やはり地上人にとっては試練とカルマ清算の意味合いがあります。場合によっては両親は死後、霊界にいる自分の子供になる予定だった胎児の霊と会うようなこともあります。

*これとは別に『霊の書』には、胎児に霊が宿らないために流産するという特殊なケースがあることが述べられて

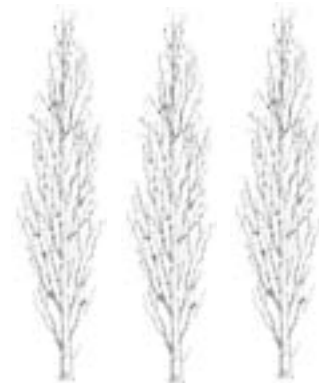
ています。初めから生まれることが計画されていなかったにもかかわらず、妊娠することがあるというのです。こうした特殊なケースが本当にあるかどうかについて確証はありませんが、霊の書では、このようなケースでは、胎児の肉体はあるところまでは成長するが、やがてその物質的な肉体は機能しなくなると言っています。

流産と中絶の罪の違い

水子霊をつくるという結果は同じであっても、自然流産と中絶(*人工流産も含む)では、それに関連する霊的状况は全く異なっています。先に述べた自然流産のケースでは、地上の両親が罪をつくることにはなりません。流産によって地上の親は苦しみの体験をするのが普通ですし、もともとエゴ的な要素はありません。

それに対し人工中絶の場合は、地上人のエゴによって、一方的に胎児の肉体を葬り去ることになります。それは地上の人間を殺すのと同じ殺人の罪を犯すことであり、水子となる胎児霊は不当な被害を被ることになります。中絶を行った罪は、すべて地上人に科せられることになるのです。罪の償いは、人それぞれ異なりますが、苦しみや後悔といった強い心の痛みがともなうようになることは共通しています。

地上で罪の償いができなかったときには、死後、自分の子供になるはずであった胎児霊と対面させられることとなります。おそらくその時には、針のムシロに座らされるような心境を味わうことになるでしょう。



霊的事実に対する無知が、中絶の最大原因

地上人が中絶という殺人を犯してしまうのは、霊的事実に対して無知であるためです。胎児には受精時にすでに魂が宿り、私達と同じような独立した人間になっていることを知らないからです。地上人と胎児は、霊的な本質において何の違いもないことが分かっているのです。胎児は肉体を奪われると、小さな霊体にくるまれてその後も生き続けなければなりません。その胎児霊と、いつか必ず霊界で対面させられることになるのです。

こうした事実を知らないために、胎児を単なる肉体（物質）と考えて、安易に中絶に走ってしまうのです。

奇形の胎児も、生存する権利を持っている

胎児が私達地上人と同じ生命的存在である以上、法律によって中絶を殺人罪に定めることは当然です。生まれたばかりの子供を殺したり捨てたりすれば、現在の法律でも罪が問われ罰せられることとなりますが、胎児に対してもそうあるべきなのです。

また現在では超音波などの検査技術が発達して、子宮内の胎児の状態もはっきり分かるようになっていきます。そのため胎児の身体に異常が見つければ、当たり前のごとく中絶してしまいます。最近では、喫煙や乱れた食生活の影響で女性の身体が弱化し、奇形児の発生率が非常に高いと言われています。奇形の胎児を中絶することは、心情的に理解できないわけではありませんが、それでも殺人という罪を犯すことには変わりありません。身体障害者を殺せば殺人罪に問われますが、奇形の胎児を中絶することは、それと同じ罪を犯すことなのです。

奇形児が宿ったということは、実は単なる偶然ではありません。奇形の胎児にも霊は宿り、地上に生まれる日を待っています。このような霊は、わざわざ辛い地上人生を選択して奇形児に宿ったのです。一方、奇形児を持つことによって、地上の親も辛い人生を体験することになります。しかし霊的に見たときその親は、霊的成長のために、そうした体験が必要であったということなのです。奇形の胎児を霊

的視野から見ると、以上のような状況が浮かび上がってきます。

単に肉体的な異常があるから生まれさせてはならない、親が苦勞するから中絶するというのは、唯物的視野に立った身勝手な考え方です。奇形児の中絶は、肉体という物質的外形しか見えないこの世の人々には何の問題もないことのように映るかも知れませんが、実は大きな罪を犯しているのです。中絶する医者も殺人実行犯として、同じ罪に問われることとなります。

ただし、何としても子供が欲しいと願っていたにもかかわらず、母体の健康上の理由によって、母体の生命を取るか、胎児の生命を取るかの選択を迫られる場合があります。こうしたケースでは、母体の生命維持を優先して中絶したとしても「霊的摂理」に反することにはなりません。同じ中絶であっても、内容的には自然流産と同じで、罪に問われることはないのです。状況によっては、中絶のために生命を落とした水子霊と、霊界に行ってから喜びの再会をするようなこともあります。



3 || 胎児霊のその後の様子と、 胎児霊の再生

水子霊は必ず再生する

再生霊にとっては、せっかく地上人となるチャンスを与えられたのに、地上人のエゴによって一方的にそれが奪われることになるのですから、そのショックはたいへんなものです。再生霊は、霊界における念入りの準備のもとで、悲壮な決意をもって再生人生を歩み始めます。自分の霊的成長のためには、何としても地上に再生しなければならないことを自覚し、退路を断って新しい人生を歩み出すのです。したがって不幸にして水子霊になるような事態を迎えても、再度地上に誕生するチャンスを探し求めなければなりません。

一方、初めての霊（新しい霊）の場合も、地上への出発をすでに始めています。一個の独立した霊として存在し、永遠の進化の道を歩んでいかなければなりません。永遠の旅路を歩み出そうとするまさにその出発点で、中絶によって道が閉ざされてしまうことは大きな不幸です。しかし永遠の進化という宿命を与えられた以上、水子となった霊は時をおいて別の母胎、あるいは同じ母胎に宿り、再び地上人生を始めることとなります。

（質問）「墮胎された霊は、いつかまた誕生してくるのでしょうか」

（シルバーバーチ）「そうです。責任は免れません。物質界への誕生の目的が自我の開発であり、そのせっかくの機会が叶えられなかった場合は、もう一度、必要とあれば何度でも、再生してきます」

（シルバーバーチ 8・132）

しかし、水子霊はすぐに再生のチャンスが与えられるとは限りません。失敗に備えて次の再生の準備が整えられていた場合は別として、一般的には新たな出発をするのに、それなりの時間がかかることとなります。再生のための準備期間が必要となります。

次に、再生に先立つ準備期間について見ることにします。

水子霊のその後と、再生への準備

水子霊が霊界（幽界）で歩むプロセスは、それぞれの霊によって異なっています。すべて霊が、みな等しいプロセスを歩むわけではありません。受胎期間や霊的成長度、水子になった状況など各自の霊的内容によって歩む道筋が変わってきます。また新しい霊と古い霊でも、当然その後の状況は異なります。一般的な流産の場合には、次のようなプロセスを経て、霊界での成長の道をたどり、再生に臨むこととなります。

水子霊は幽界でまず、水子霊達を専門的に扱う役目を持った女性達の世話を受けることとなります。そうした役目につく霊の多くは、地上時代、子供が欲しくても叶わなかった女性達です。あの世で、地上時代に実現しなかった「子供を愛し育てる」という体験をすることとなります。それは同時に哀れな水子霊達に対する利他愛の奉仕となっており、水子霊達は、このような霊達によって現実に救われることになるのです。

水子霊達は、女性達に面倒を見てもらう中で徐々に霊的世界に適応し馴染んでいくようになります。そうして霊界に適応し、霊的世界の事情に慣れるようになったら、次に地上世界に関係した体験をさせられることとなります。水子霊はその道の別の専門家の手に預けられ、地上近くに連れて行かれます。そこで間接的に、地上生活を体験することになります。新しい水子霊は、これまで一度も地上生活の体験がありませんが、地上人として生まれていることには変わりありません。そのため霊的成長にとって、地球という物質世界との係わりと、そこでの体験がどうしても必要となるのです。



さて“古い霊”の場合は、前世での地上体験や霊界での生活がありますが、いったん地上人として再生人生を踏み出した時点で、かつての記憶は霊の奥にしまい込まれてしまいます。地上人生を無事に終えて霊界に戻って行く場合には、徐々にその記憶が蘇るようになります。しかし水子霊になった場合は、ミニチュアの霊体に閉じ込められ、しばらくの間、胎児としての個性に押し留められることとなります。そのため、かつての記憶をすぐに呼び戻すことはできません。そうした古い霊も一定のプロセスをたどって、再び地上人の胎内に宿ることになります。

4 || スピリチュアリズムから見た水子霊の崇りと水子供養について

先祖供養・悪霊の障り・動物霊の崇り・地縛霊の憑依……、これらはニセ霊能者や祈祷師にとって、まさに“金の成る木”です。ニセ霊能者や祈祷師は、人々が霊的世界に対して無知なのをいいことに、不安や弱みに付け込んで法外な祈祷料を要求したり、高価な開運グッズなどを買わせようとします。こうしたインチキ靈感商法については、すでにニューズレターで取り上げ、それらがいかにか詐欺まがいのものであるかを明らかにしてきました。

もう一つの悪質な靈感商法は「水子供養」です。水子供養の問題は、これまでスピリチュアリズムの中で、あまり問題視されることはありませんでした。水子供養は、つい最近になって急に注目されるようになりました。ここでは水子供養に係わる悪質な靈感商法を取り上げ、その問題点を明らかにします。



①水子供養を悪用したインチキ靈感商法 ——悪質な水子商法の横行

ここ25年くらいの間に、水子供養は大ブームとなりました。そして全国各地の寺院には、水子霊を祀る供養所や水子地藏・水子観音が競って建てられるようになりました。こうした水子供養ブームと並行して、ニセ霊能者や祈祷師による水子商法が横行するようになりました。水子商法は、新たな社会問題を引き起こすようになっています。

水子商法は、女性の弱みや悲しみに付け込んだ悪質な商売です。霊能者や祈祷師は相談者に対して

——「水子が憑いているため子宮の病気が引き起こされている」「水子によって家庭不和が収まらない」「主人の浮気が治らない」「嫁が子宝に恵まれない」「娘の縁談がまとまらない」などと言って不安を煽り立てます。

相談者が「自分には水子は思い当たらない」と言えば、すかさず「あなたに水子がなくても、あなたのお母さんやお祖母さんがつくった水子霊があなたに取り憑いて崇っている」と平気で嘘をつきます。そして「闇に葬られた水子を愛情をもって供養しなければ、いつまでも霊障やトラブルが続くことになる」などと、まことしやかに言うのです。

その水子供養ですが、水子一体につき、5～10万円は要求されるのが普通です。霊的な知識が何もなく、ただ不安に駆られている多くの女性達は、高いと思いつつもその要求を拒むことができません。これで可哀想な水子霊が救われ、自分の罪が許されるとするなら、少々高くても我慢しようと思ってしまうのです。

こうして多くの人々、特に女性達は、水子供養のために多額のお金をニセ霊能者や祈祷師に払うこととなります。ニセ霊能者や祈祷師・悪徳宗教家にとって、水子供養は最高の儲け口なのです。彼らにとって、これほどうまい汁はありません。

スピリチュアリズムの知識と照らし合わせてみれば、ニセ霊能者や祈祷師のしていることはインチキ以外の何物でもありません。しかし霊界に対する知

識がない人々は、たとえ疑わしいと思っても、結局、騙されることになってしまいます。水子商法は、本当に悪質なサギと言うべきものです。

私達のサークルには以前から——「スピリチュアリズムでは、水子供養をどのように考えるのでしょうか」との質問が寄せられてきました。「水子霊は実際にあるのでしょうか」「水子霊の祟りは本当でしょうか」「水子供養は必要でしょうか」など、不安や悩みを抱えた方々からの便りです。

こうした手紙をいただく度に——「霊能者や祈祷師が“水子霊の祟り・障りがある”と言っても、決して信じてはなりません。彼らは詐欺師か、あるいは低級霊に翻弄されているかのいずれかです。水子霊が皆さん方に対して、霊障を引き起こすようなことは絶対にありません。水子霊の障りで、さまざまな不幸やトラブルが生じていると言うなら、その霊能者に、“どうか人助けと思って無料でお祓い（はらい）をしてください”と申し出たらいいのです。相手に少しでもまともな良心や奉仕の思いがあるなら、無料でお祓いをしてくれるはずです。もしそうでないなら、すべてがインチキと思って、今後は一切相手にしないことです」と返事を差し上げています。

結論を言えば、水子霊は存在します。しかし水子霊が地上人に祟って、不幸を引き起こすようなことは絶対にありません。



②スピリチュアリズムから見た正しい水子供養とは

中絶の罪と罰、そして償い

これまで何度も述べてきたように、“中絶”は殺人と等しい罪を犯すことです。中絶は神の摂理に背くことなのです。神の摂理に反した行為は「因果律」の働きによって、いずれ何らかの苦しみや痛みという形で返ってくるようになります。その苦しみこそが、罪に対する罰に他なりません。

地上に住む人間は、過ちや失敗の結果である苦しみの中から教訓を学び、霊的成長の糧を得るようになっています。中絶によってもたらされた苦しみを通じて深く反省し、その後の生き方をより霊的なものにするので、初めて罪の償いがなされるようになります。逃れられない苦しみを味わい、過ちを反省し、そして自己犠牲のともなう奉仕的な生き方することによって、水子霊に対する加害者としての罪が償われるようになるのです。

水子供養に安易な安心感は禁物

性徳の乱れた醜い現代社会の現実、最低限の霊主肉従の歯止めが地上人の中から失われつつあることを意味しています。“中絶が当たり前”という風潮は、人間から霊的感性を奪い去ることになります。その結果、中絶に対する罪の重さに気づくことも、心を痛めることもなくなってしまいます。

もし中絶に対して後悔するような人間がいるとするなら、その人にはまだ救いの余地があると言えます。水子霊に対する供養は、そうした人にとっては存在意義があるとも言えるかも知れません。たとえインチキ水子供養であっても、時には中絶の間違いを自覚させ、二度と同じ罪を犯してはならないという気持を呼び起こすことがあるからです。

とは言ってもインチキ水子供養は、安易な安心感を与えるだけで、深い反省を引き出すことはめったにありません。“中絶の罪”は、お金を出して人に祈祷や供養をしてもらったり、水子地蔵を奉納したり、仏典を写経するくらいのことで消え去るもので

はありません。自分の犯した罪を強く自覚して真剣に悩み、心の底から深く反省し、清らかな人生を出発しようと決意してこそ償われるのです。

水子霊の救済は、霊界サイドで行われる

地上人が、水子霊をつくってしまったことをどれだけ後悔しても、すでに殺してしまった胎児が戻るわけではありません。人殺しをしてから、後でどれだけ重い罰を受けても、殺した相手は生き返らないのと同じです。

水子霊の場合、その救いは先に述べたように霊界のしかるべき人々によって進められ、やがて地上に再生する道をたどることになります。水子霊の救いは、地上人とは全く係わりのないところでなされていくということです。水子霊の供養は本質的には、その霊が再度、地上に生まれることができた時点で成就することになります。

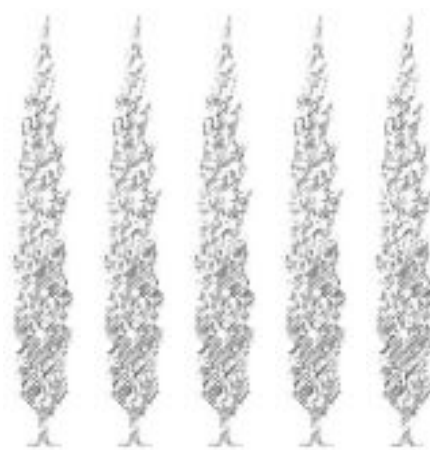
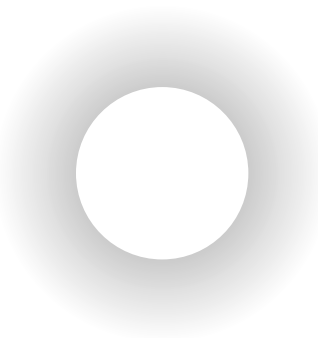
こうした事情を知ってみると、地上人が水子霊を救うかのような言い方をする水子供養の実態は、いかに偽善的でインチキなものであるかが理解されます。いったんつくってしまった水子霊の救いは、霊界の人々にお願いするしかないのです。霊界の人々に頼るしかないのです。地上世界における水子供養は、単なる地上人の気休めにしかなっていません。

地上人ができる、一番の水子供養とは

自分が水子をつくるという罪を犯してしまったなら、何より深い反省をして、新しく霊的な人生を歩み出すことです。それこそが水子に対する一番の誠意の示し方なのです。二度と同じ間違いを犯さないように決心し、それまでの考え方・生き方を根本から改めることです。スピリチュアリズムの真理にそった霊的な人生を歩み始めることです。

また自分自身に対する反省ばかりでなく、霊的真理に無知なために自分と同じ罪を犯し続けている人々に、中絶の罪の重大さを訴えて、一人でも多くの人が過ちをしでかさないように働きかけることです。自分が犯した罪は、社会から同じ罪をなくすために働きかける利他的行為によって償われます——

「利己性がもたらす罪は、利他愛の実践によって償われるようになる」ということです。これこそが、本当の意味での「水子供養」と言えるのです。



③性の乱れこそが、水子問題の元凶

墮胎天国と、最も醜い現状

日本は少し前まで“墮胎天国”と言われてきました。中絶に対する実質的な法的規制がなかったために、多くの女性が隠れて人工妊娠中絶をしてきました。繰り返しますが、中絶は殺人と同じ罪を犯すことであり、霊的に見たとき決して許されることではありません。

しかし中絶には、それを行なった当事者の動機によって情状酌量が考慮されるような一面もあります。現在 60 歳以上の女性の多くが中絶を体験していますが、彼女達の場合、多分に経済的な問題が理由となっています。また彼女達は、夫婦間において水子をつくっているのがほとんどであって、婚外関係でつくったものではありません。そうした点を考慮すると、彼女達をストレートに責めることはできません。

一方、現在の 10 代、20 代の若い女性達の中絶には、ほとんど弁解の余地はありません。彼女達の行う中絶は、単なる肉欲の放縦・性の乱れの結果以外の何物でもないからです。そうした罪について霊界では、言い訳は一切許されません。本能的な快楽を思いのままに追い求めることが当たり前、好きな人とセックスしてどこが悪いといった風潮が、こうした邪悪な罪を日常的につくり出すことになっています。

とは言っても、若者達だけにすべての責任を負わせることはできません。彼らだけが責められる問題ではありません。若者達の獣性的な乱れは、現在の日本人の霊的実状を反映しているのもあって、日本人全体の霊的問題と考えなければなりません。セックスの乱れは、その国や社会の霊的状況・道徳意識を的確に映し出す鏡であり指標なのですが、その嘆かわしい現状は、いかに日本人が霊的に墮落しているかをよく示しています。霊的な問題は、他人に迷惑をかけないからとか、自分の自由といった軽薄な判断で許されることではないのです。

エイズ流行の功績

エイズの流行は、現代のセックスの乱れに対して、大きな牽制となっています。エイズはとかく人類共通の敵のように思われていますが、人類の霊性向上に、決してマイナスにはなっていません。それどころかエイズは、性の放縦に何の疑問も感じない現代人には、むしろ必要なものと言えるかも知れません。「エイズが人類の敵ではなく、性の放縦こそが人類の敵」であることを、しっかりと認識すべきなのです。

考えようによっては、エイズは現代人に必要な痛みをもたらし、肉欲・本能の放縦にブレーキをかけてくれるありがたいものなのです。エイズの流行によってアメリカでは、安易なセックスの風潮に歯止めがかけられ始め、若年層の間から、婚前のセックスを軽蔑するような動きが見られるようになっていきます。これは実に喜ばしいことです。世界の雛型として、善きにつけ悪きにつけ地球人類の歩みの最先端に立つことが運命づけられているアメリカにおいて、性の荒廃に歯止めがかけられつつあることは、明らかに善い兆しと言えます。

これまでのアメリカは、霊性の低い地球を代表する形で、最も醜い墮落退廃の状況をさらけ出してきました。エイズの流行によって、性の荒廃に対する反省が生まれ、健全な性の在り方が模索されるようになったのです。今後はアメリカから新たに、従来の性モラルに対する見直しと、健全な性モラルについての議論が巻き起こることになるでしょう。そして健全な性モラルが、世界の人々に示されるようになるものと思われます。

婚前のセックス、婚外のセックスが当たり前とされている現在の地球上の風潮が、いかに異常なことであるかに地球人類が気づくようになるのも、それほど遠い将来のことではないでしょう。



水子供養の風潮は、時には消極的な貢献か？

エイズの流行が、性の墮落退廃の歯止めとなっているように、水子供養の風潮が、中絶という罪に対する部分的な牽制となっているのも事実です。水子供養が中絶に対する反省を促すことになるのなら、それこそが社会に対しての貢献ということになります。現在横行している水子供養の大半はインチキ以外の何物でもありませんが、水子霊の障りという“ニセの脅し”を与えて中絶にブレーキをかけさせる結果になるなら、皮肉なことに、それなりの意味を持つということになるかも知れません。インチキ水子霊商法が、消極的ながらも日本人の性モラルの低下に対する歯止めになるかも知れません。

とは言っても、それでニセ霊能者や祈祷師の悪行自体が許されるわけではなく、いつか必ず、その罪に対する責任が追及されるようになることは言うまでもありません。

最も厳しい性倫理を主張しているシルバーバーチ

スピリチュアリストは、シルバーバーチの次の言葉を、じっくり考えてみる必要があります。

明確にしておかねばならないのは、性的快楽のみを求め、子供は邪魔だという考えから避妊するのは、私は賛成しないということです。

(シルバーバーチは語る・413)

この言葉の中には、スピリチュアリズムの性倫理が端的に示されています。シルバーバーチの示した内容は、現在の地上人にとって、最も厳しい倫理基準となっています。この基準を順守しようとするなら、日本人のセックス（*特に婚外のセックス）の大半は間違っているということになります。そして、それだけにとどまらず正式な夫婦間のセックスに対しても、この言葉は大きな問題を提起していることに気がつくはずですが、シルバーバーチが投げかけている問題点については、一人一人が自分の良心に照らして、じっくり考えていただくことにしたいと思います。

地球は下から2番目という霊性の低い惑星であることが明らかにされています。その霊性の低さゆえに、進化した他の惑星の人間にとっては当たり前なのが、はるか彼方の理想・目標になっています。

例えば、地上人の肉食の習慣などもその一つです。霊的に見たとき“肉食”は、決して容認されない残虐非道な行為なのですが、現在の地球上ではそれが当たり前のことになっています。肉食が間違いであることに気づいた人が、徐々に増えつつあるという未熟で低い段階を歩んでいます。地球人の“性”の在り方も、この肉食の問題と類似しています。霊界人と地上人では、その見解にきわめて大きな隔りがあるのです。

シルバーバーチによって示された性倫理の基準は、現実の地球人にはあまりにも厳しく、完璧な実行は到底不可能のように思われます。しかし霊的真理と真っ先に出会ったスピリチュアリストは、手にした真理には責任がともなうことを自覚して、可能なかぎり理想に向けて努力していかねばなりません。まかり間違っても、世俗に迎合するような愚かなことをしてはなりません。

たとえこの世の人々に嫌われても、この世の人々から間違い扱いされても、真実は真実として主張し、霊的真理に照らした誠実な努力をすべきなのです。スピリチュアリズムは、この世だけを対象としているのではなく、常に霊界という永遠の世界を対象とした歩みであることを忘れてはならないのです。



スピリチュアリズム・ビデオ&テープ ライブラリー

VIDEO

—ビデオ—

『地球人類の霊性進化の道“スピリチュアリズム”』

—霊的真理のエッセンス・真理編—

(価格)

「真理編・前編」 2時間テープ 1本……2,000円

「真理編・後編」 2時間テープ 2本……3,500円

※別途、送料がかかります。

TAPE

スピリチュアリズム関連書籍の「朗読テープ」

「スピリチュアリズム入門」 90分テープ 4本……2,000円

「続スピリチュアリズム入門」

90分テープ 5本

60分テープ 1本

計6本……2,800円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

90分テープ 8本……3,500円

※テープの価格を変更いたしました。なお別途、送料がかかります。

★現在、「朗読テープ」のCD化を進めておりますが、

「続スピリチュアリズム入門」が完成しています。

74分 CD 7枚……4,000円

※ビデオは、VHSとS-VHSの2つのタイプがあります。どちらかをご指定ください。
S-VHSのタイプの方が、よりきれいに映りますが、専用デッキでないと再生できません
のでご注意ください。
※朗読テープは、自由にダビングしていただいて差し支えありません。

❖ スピリチュアリズム・ライブラリー ❖

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

- ◆スピリチュアリズム入門 (169頁)
ースピリチュアリズムが明かすー「心霊現象のメカニズム&すばらしい死後の世界」
- ◆続スピリチュアリズム入門 (256頁)
ー高級霊訓が明かすー「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」
- ◆スピリチュアリズムの真髄「現象編」 (297頁)
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
- ◆スピリチュアリズムの真髄「思想編」 (357頁)
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
- ◆500に及ぶあの世からの現地報告 (437頁)
ーエクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活ー
『Life After Death』 ネヴィレ・ランドル著/小池 英 訳
- ◆マイヤースの通信ー永遠の大道 (全訳) (271頁)
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
- ◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方 (全訳) (304頁)
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (完訳・上) 『The Spirit Teachings』 (225頁)
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (完訳・下) 『The Spirit Teachings』 (260頁)
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチは語る (443頁)
『Teachings of Silver Birch』 A. W. オースティン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓
ースピリチュアリズムによる霊性進化の道しるべー
『A Voice in the Wilderness』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓
ー地上人類への最高の福音ー
『The Seed of Truth』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- 〈現在絶版となっている書籍の復刻予定〉
- ◆シルバーバーチの霊訓 (仮題) 『The Spirit Speaks』
トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆ジャック・ウェバーの霊現象 『The Mediumship of Jack Webber』
ハリー・エドワーズ著/近藤千雄 訳
- ◆妖精物語 『The Loming of the Fairies』
A・コナン・ドイル著/近藤千雄 訳

◀ お知らせ ▶

春の到来によって、新しい生命の息吹を日々感じるこの頃です。

最近では読者の皆様から、自衛隊のイラク派遣やオウム裁判などに対するスピリチュアリズムの見解を示してほしいという多くの声が寄せられています。いずれ機会を見て取り上げることにしたいと思います。

当サークルの今後の予定をお知らせいたします。

●当サークル発行の書籍やニューズレターについては、日を追うごとに申し込みが急増しています。それだけスピリチュアリズムが日本全国に浸透し始めている証と思いき喜んでおりますが、何しろ少人数のサークルですので、嬉しい悲鳴を上げているような実情です。限られたメンバーで対応するには、労力的にも資金的にもほぼ限界に至っております。そのため4月より、ニューズレター配布の方針を変更させていただきます。詳しくは同封の別紙をご覧ください。

●ご存じのように当サークルでは、スピリチュアリズム普及のためにメンバーが協力してホームページを開設しています。現在、第1ホームページに加えて、第2ホームページとして“スピリチュアリズム・ブックス”を開設していますが、そこでは当サークル発行書籍の内容を自由に読んでいただけるように充実を図っています。また第3ホームページの製作も進めています。このホームページでは、心霊現象全般について幅広く取り上げます。順調にいけば、今年中に公開できるものと思います。

●長い間お待たせいたしました。シルバーバーチの復刻本（旧題・愛の絆）が、2～3カ月のうちには発行できる見通しとなりました。ご予約いただいている皆様には、出来次第お届けいたします。

●ニューズレターの先号（24号）では、日本スピリチュアル・ヒーラーグループによる第1回公開ヒーリングの様子をお知らせいたしました。第2回公開ヒーリングが4月11日に行われることが決まりました。関心のある方は同封のリーフレットをご覧ください。日本スピリチュアル・ヒーラーグループまでお問い合わせください。



Spiritualism Circle
Kokoro no Dojo